



暖かい心 広い視野 行動力

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者

守永 信幸

〒870-0022

大分市大手町3-2-9

TEL 097-532-4919

FAX 097-534-6598

復興と併せて、元気のでる施策を ～トリニータ支援と日中友好の絆～

2012年第3回定例会は、9月4日から9月20日まで開催。7月の豪雨災害対策予算を含めた354億円に上る補正予算など44件の議案が提出され、9月20日の閉会までに、31件の議案と1件の報告が承認されました。

補正予算354億円の内、305億円が豪雨災害からの復旧・復興のための予算です。大分県は8月27日に梅雨前線豪雨災害復旧・復興推進計画を策定し、被災者の住宅再建支援、農林水産業、商工業等への金融支援、学校施設の復旧や道路河川などの社会資本等の復旧のための予算を確保したところです。特に早期復旧が必要なものは、災害査定前の事前着工なども活用して、早期の復旧をめざします。

復旧・復興関連以外の補正予算では、県立美術館の建設に係る本体建設工事発注に向けての債務負担行為の設定や隣接地の取得に係る移転補償費が計上されました。大分トリニータへの支援も大きな課題となりました。大分トリニータは、『県民』・『企業』・『行政』の三位一体で育ててきたクラブチームです。青少年をはじめ県民に夢と勇気と元気を与えるチームとして、Jリーグでの活躍に期待される所です。今回の行政サイドの支援1億円のうち県からの支援分として5千万円が、財団法人大分県文化スポーツ振興財団を通じて支援されることとなりました。所得の格差が広がる中で、この支援に対する思いはそれぞれあるとは思いますが、しかしながら、トリニータがJ1に昇格することで、県外サポーターの来県など人の動きが活発化し、それが大分県経済に良い刺激を与え得ると思われまます。J1に昇格することで、チームの運営経費が嵩む懸念もありますが、若い選手を育てていくことを中心に考えていくなど、他のJ1チームにないやり方を模索していただきたいと思ひます。

また、別府港への大型客船の誘致対策についても新たな予算が提案されました。中国の富裕層をターゲットにした観光客誘致のための施設整備です。中国の経済発展に伴う景気刺激は大きなものが想定されるだけに、今こそ、民間レベルで積み重ねてきた友好の絆を互いに確認し、早急に関係回復への取り組みを進めて行く必要があるでしょう。



▲大分トリニータの松原選手とサッカーを楽しむ子どもたち



▲整備が計画される別府港第4埠頭

議会閉会后、10月2日から決算特別委員会が開催され、2011年度の決算に関する議案13件が8日間かけて審議されました。決算特別委員会での議論は、昨年度の決算内容を審議しながら、これから編成される次年度(2013年度)予算に反映させていくための議論ともなりました。

発達障がいの早期発見・見守り体制

「発達障がい」について、あるHPには「発達障がいとは、発達の度合いにデコボコがあることによって、一般よりも強い個性が表れていることである。誰もが発達にばらつきはあるものの、その程度が著しく大きく、コミュニケーションや社会生活に支障をきたす時に発達障がいといわれる（「ふぁみえーる@発達」から抜粋）」と説明されています。

大分県では本年度から、発達障がいの早期発見と関係機関による見守り体制を整える事業がスタートしています。「発達障がい児等心のネットワーク推進事業」といい、発達障がいや小児うつといった「子どもの心の診療」を中核的に担う診療拠点病院を指定し、拠点病院と各関連機関が連携して、子どもの心の問題に対応していく体制を整備する事業です。子どもの心の診療拠点病院には、大分大学医学部附属病院が指定され、子どもの心の診療支援と地域の小児科医等への専門研修を行うこととなっています。更に、「子どもの心の診療ネットワーク会議」を開催し、大分大学附属病院と各関係機関が連携して子どもの心の支援体制のあり方について検討する場を設けています。



▲津久見市で開催された講演会の模様

そこで、今現在の運用状況はどのようになっているのか、大分県障害福祉課で尋ねてみました。各市町村への支援体制については、今年度は竹田市、津久見市、佐伯市での支援が始まっています。5歳児を対象にした発達障がいについての診療支援や、講演会を行い、講演会では3市で180人の方々を受講されたそうです。今後、日田市、豊後高田市、豊後大野市、九重町などでも取り組む計画とのことです。

発達障がいについては、2002年度に行われた文部科学省での調査では、小学生の内6.3%の児童に出現しているとのことです。これは30人学級でいえばクラスに約2人の発現率となりますから、相当高い発現率と言えます。早期に気がつきケアできれば、得意な面を更に伸ばし、社会機能を維持するために苦手な面をカバーするスキルを身につけさせることができるとのことであり、教師や親など周囲の方々が、いかに早く気がつき、全体でケアをしてあげられるかが重要なようです。

しかし、実態としては、自分の子どもに障がいがあるかもしれないと言われても、日常生活では、他の子どもたちとさほど変わらない我が子に障がいがあることを認めたくないのが親心です。医療機関としても、親が子どもの状態や特性を理解できるように支援していくことが、まず最初の段階であると考えているようです。発達障がいが前述のような比率で発現しているのであれば、発達障がいについての偏見をなくし、正しい知識を周知することも必要でしょう。その中で、子どもたちにとって適切な対応が為されるべきと言えます。

大分大学医学部附属病院の役割

大分大学附属病院の小児科が診療拠点病院の窓口となっています。しかし、早期に子どもの発達障害に気づくためには、乳幼児から関わりを持つ小児科医の発達障がいに関する感度を高めていくことが必要でしょうし、その情報提供や基礎研修の場を診療拠点病院が担い、地域全体の連携により、子どもたちをフォローアップしていくことが大切であろうと考えます。しかし実質的に地方においては、診療にあたる病院や医師がいないという現実を乗り越えねばなりません。小児科の診療科目を設けている病院や診療所は、大分県下に211機関です。また、精神科や心療内科と言った診療科目を持った病院は増えてきていますが、成人を診ることが多い一般精神科医、心療内科医が子どもの発達障がいを診察することはほとんど無いようです。子どもの発達障がいを診るのは、数少ない小児科神経専門医と児童精神科医、小児（精神）科医の一部でしかなく、専門医の確保・育成が困難な状況があるようです。当面、地域における小児科医の人材育成と子どもの発達障がいについての専門医との連携や診療拠点病院としての大分大学附属病院との連携のあり方を考えていかねばなりません。



▲大分大学医学部附属病院

かかりつけ医を持つことの大切さ

私自身7年程前にストレスから糖尿病を患い、I型糖尿病患者として月に1度病院に行き、血液検査

や健康状況を把握するための検査を行っています。そのような療養を続けていて感じるのが、かかりつけ医の大切さです。私も以前は、健康診断こそ受けますが、医者に掛かることはなく、多少具合が悪くても、心配ないと勝手に決めつけていたものです。糖尿病をきっかけに、私の健康状況を把握してくれるお医者さんが居るといふことの安心感を感じるようになりました。一病息災とは良く言ったものです。

精神医療の面でも、このようなことが言えるのではないのでしょうか。そのためには、専門科目としての医師だけでなく、かかりつけ医的な位置にいる医師が、基礎的なことを知識として持ち、適切なアドバイスが出来るようであってほしいと感じています。

発達障がいについての知識を身につけた医師が身近に求められる時代と言えるのではないのでしょうか。

子どもたちの健やかな心の発育のために

今回の事業では発達障がいについての取り組みとなっていますが、子どもたちの心はとても傷つきやすいものです。子どもの精神医療では、被虐待児の治療などでは、一定期間の入院が必要な場合が少なくないようですし、子どもたちの教育の保証も不可欠です。

子どもを育てる大人たちみんなで子どものメンタルケアを、しっかりと取り組んで行くことが重要となります。何か子どもの問題に気づいた時に、相談できる体制を子どもたちの身の回りに構築していかなければなりません。大分県における精神医療（特に子どもの精神医療）の体制拡充に向け積極的な取り組みが求められます。

ドクター・ヘリ 10月から運行開始

大分県では、大分大学附属病院を基地病院とするドクター・ヘリが10月1日から運行を開始しました。これまで防災ヘリ「とよかぜ」をドクター・ヘリ的な運用をしてきたのと、久留米大学病院を基地病院とする福岡県ドクター・ヘリを福岡・佐賀・大分の3県で共同運行しており、今後大分県下では、3機体制で広域救急医療体制を構築することとなります。

このドクター・ヘリの運用により、要請を受けてから数分で離陸し、約20分以内に県下をカバーできるという話です。1分1秒でも早く対応を求められる救急現場で、より多くの命が救えることとなります。大分県ドクター・ヘリの出動要請は、消防機関から大分大学附属病院にホットラインで要請することになっており、一般県民から直接要請することは出来ません。現場に駆けつけた救急隊員の判断で要請することになるわけですから、現場救急隊員の判断能力も高いものが求められることとなります。



▲ドクター・ヘリの基地となる大分大学附属病院の救命救急センター

ドクター・ヘリは、直接現場に着陸できるとは限りません大分県下に約300カ所の臨時離着陸場が指定されていますが、離着陸時の安全確保が重要です。安全が確保されれば、指定の場所以外でも離着陸できるようになっていますので、緊急の場合には、現場での救急・消防隊員の指示に従って、ご協力頂けるよう県民の皆さんのご理解と対応をお願いします。

大分県立病院にも屋上にヘリポートがありますが、ドクターヘリに搭乗する医師や看護師の対応、患者の受け入れ対応など、基地病院と連携をもってとり組むこととなります。



▲県立病院と屋上のヘリポート

どうなるか、日本と中国の友好関係

中国や韓国との外交問題がどの様になるのか不安な情勢が続いています。中国における激しい反日デモについても報道されました。尖閣諸島の海域では、海上保安庁の巡視船が連日警戒態勢を取り、中国、台湾の船舶との衝突も懸念される情勢です。

日本中国友好協会の各種交流事業も延期や中止を余儀なくされています。この日本中国友好協会は、1950年に「日中両国国民に悲惨な結果をもたらした戦争を再び繰り返させないために、日中両国間の人事交流、文化交流および経済貿易を促進することにより、両国間の相互理解を深めるとともに友好関係を築き上げ、もってアジアのみならず世界の平和と安定に貢献する（社団法人日本中国友好協会設立趣意書から）」ことを目的に各界の民間有識者が発起人となって設立された任意団体です。設立当初は、日中の国交がなかった時代ですから、大変な苦勞をしながら、在留邦人の引き上げや遺骨送還、各種の文化交流促進事業を地道に続けてきた団体です。その地道な活動が実り、今日までの日本中国の交流が発展してきたと言えます。尖閣諸島を巡るここ最近の反動的な動きが、民間レベルの地道な活動の成果を無にするようなことになってはならないと思います。



▲日中国交正常化40周年を祝う新春祝賀会（2012年1月）

中国は、約14億人という多くの人口を抱え、これから経済的な発展も望める大国です。世界中が注目をし、繋がりを求めていると考えても良いでしょう。大分県でも、観光戦略の一つとして中国の富裕層に焦点を当てているわけですし、貿易面でも梨を始めとする大分県農産物の輸出相手先としても注目しています。14万トン級の大型クルーズ船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」も来年4月以降の入港が決定し、受入態勢整備のため、2012年度補正予算では別府市と一緒にターミナルの整備に取り組むことを決めました。

今の緊張関係を修復するには時間がかかるかもしれませんが、友好的な隣人としての関係修復に向けて、いまこそ、民間レベルでの友好関係の構築が重要な時ではないでしょうか。



行動日誌

- 8. 2 むっちゃん平和祭
- 4 ピースリーディング
- 5 城東原川地区GG・ドッチボール大会
- 7 会派県外調査(宮城県)～9日
- 11 宮脇昭氏講演会(佐世保市)
- 15 8・15戦争に反対する県民集会
- 18 日出生台日米共同訓練・オスプレイ配備反対集会
- 19 津留小学校学校清掃活動
- 19 誰もが安心して暮らせる大分県づくり条例づくり集中討議(8/26、9/5・21、10/12・18)
- 21 自治体議員団会議九州ブロック政策研究集会(～22日)
- 22 大分駅高架・駅周辺総合整備促進協議会総会
- 24 首なし地藏供養祭
- 9. 1 フクシマ後を生きるために(藤田裕幸氏講演会)
- 4 県議会開会(～20日)
- 4 大分政経懇話会(講師＝大野治夫氏)
- 6 津留地区体育協会理事会
- 7 大分県戦没者追悼式
- 8 県民体育大会開会式
- 8 県民体育大会(議員ソフト)
- 10 県民体育大会(議員ソフト準決勝・決勝)
- 9. 12 生協県連との懇談会
- 13 誰もが安心して暮らせる大分県づくり条例をつくる会事務局会議
- 15 社会科学研究会
- 20 飲酒運転根絶街頭啓発
- 20 県議会本会議(閉会)
- 22 「しげの安正」事務所開き
- 25 JR九州ユニオンと防災危機管理課との打ち合わせ
- 26 大分政経懇話会(講師＝有馬晴海氏)
- 26 内田前県議叙勲祝賀会
- 29 津留小学校運動会
- 10. 2 決算特別委員会(～31日)
- 2 大分市大石地区座談会
- 4 自然エネルギー学習会
- 9 第3回九州横断長崎・熊本・大分観光振興協議会総会
- 13 社会科学研究会
- 14 津留地区敬老会
- 15 産業雇用対策特別委員会県外調査(～17日)
- 20 県農林水産祭“おおいたみのりフェスタ”
- 20 連合大分「政治学習会」
- 21 津留地区体協夢ボール・囲碁ボール・スマイルボウリング大会
- 25 連合大分当初予算部局長交渉(～26日)

お知らせ

- ◇県議会や私の活動に関する報告会を皆さまの要請に応じて開催していきたいと考えています。数人の集まりでも結構ですので、機会があればお知らせください。日程を調整させていただきます。
- ◇第4回定例会で、一般質問に立たせて頂く予定です。一般質問2日目の1番手の予定です。
- ◇守永信幸後援会の会員を常時募集しています。年会費3千円ですが、守永を支援してやろうとお考えの方、是非ご加入をお願いします。(連絡先：097-532-4919 担当＝後藤)

編集後記

決算特別委員会や7月の豪雨関連で延期された常任委員会の調査など、第3回定例会と第4回定例会の間は目まぐるしい日程となっています。特に秋は、お祭りなど、様々な地域行事も目白押しです。冬に向けての準備も含めて、秋に出来ることをしっかりとやっておかなければいけませんね。